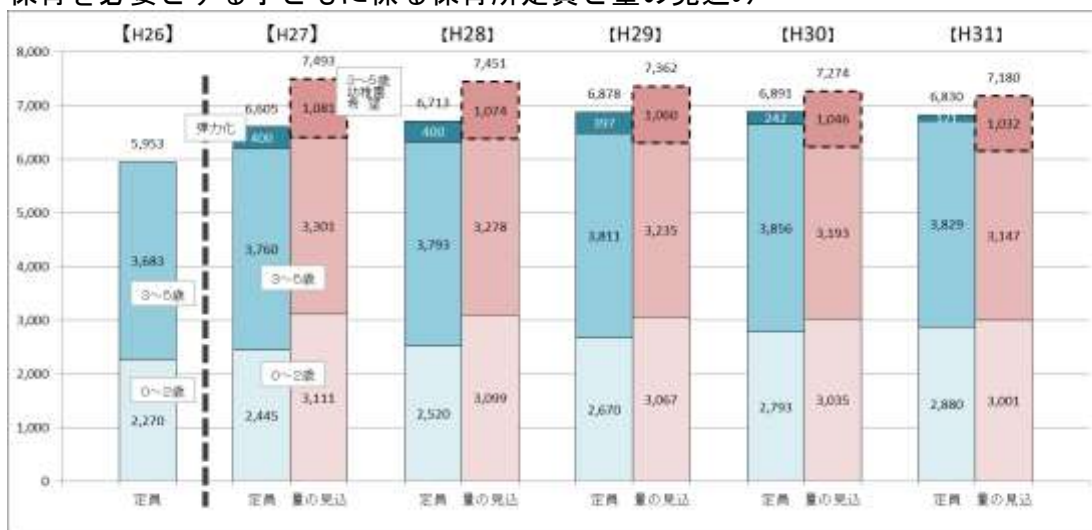


[保育所待機児童解消に向けた工程]

平成29年度（2017年度）末までに年間の待機児童解消を図ります。

幼稚園の認定こども園移行や認可保育所の整備，地域型保育事業の導入等により，計画期間内に約500名の定員増を行います。3歳以上児については量の見込みが定員数を上回っていますが，ニーズ調査によれば「幼稚園を希望する子ども」が相当程度いることから，幼稚園の利用により不足は生じない見込みです。3歳未満児については，定員増と定員弾力化により，平成29年度（2017年度）には，必要とされる量の見込みが確保される見込みです。

□ 保育を必要とする子どもに係る保育所定員と量の見込み



■ 0～5歳 (単位:人)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31
量の見込み(A)		7,493	7,451	7,362	7,274	7,180
年度当初の受入枠(B=C+D)		6,605	6,713	6,878	6,891	6,830
年度当初の定員(C)	5,953	6,205	6,313	6,481	6,649	6,709
定員の弾力化(D)		400	400	397	242	121
不足(E=A-B)		888	738	484	383	350

□ うち3～5歳 (単位:人)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31
量の見込み(A1)		4,382	4,352	4,295	4,239	4,179
年度当初の受入枠(B1=C1)		3,760	3,793	3,811	3,856	3,829
年度当初の定員(C1)	3,683	3,760	3,793	3,811	3,856	3,829
定員の弾力化(D1)		0	0	0	0	0
不足(E1=A1-B1)		622	559	484	383	350

	H26	H27	H28	H29	H30	H31
量の見込み(A1)のうち幼稚園希望の子ども(F1)		1,081	1,074	1,060	1,046	1,032

□ うち0～2歳 (単位:人)

	H26	H27	H28	H29	H30	H31
量の見込み(A2)		3,111	3,099	3,067	3,035	3,001
年度当初の受入枠(B2=C2+D2)		2,845	2,920	3,067	3,035	3,001
年度当初の定員(C2)	2,270	2,445	2,520	2,670	2,793	2,880
0～2歳定員の弾力化(D2)		400	400	397	242	121
不足(E2=A2-B2)		266	179	0	0	0

■ 整備の内訳(0～5歳) (単位:人)

区分	H26		H27		H28		H29		H30		合計	
	箇所数	人数	箇所数	人数	箇所数	人数	箇所数	人数	箇所数	人数	箇所数	人数
認定こども園移行	8	91	1	30	2	60	3	90	2	60	8	240
認可保育所新設等	3	161	1	60	1	90	1	60			3	210
地域型保育事業	***	***	1	18	1	18	1	18			3	54
定員のフラット化(※)					1	0			1	0	2	0
合計	11	252	3	108	5	168	5	168	3	60	16	504

※定員のフラット化—各年齢区分の定員数を見直し，区分ごとの定員数を同数にすること。